



竜北通信 高岩

甲斐市立竜王北中学校
学校だより
発行 校長 依田宏記
令和5年度 卒業生号
2024. 3. 8.

卒業おめでとございます

3年生の皆さん、いよいよその日がやってきます。小学校に入学した時から数えると9年間、うるう年が3回ありましたから単純計算で3288日を、義務教育のもとで過ごしたことになります。振り返ってみれば思い出がいくつも蘇ってくるのではないのでしょうか。私自身の中学生時代はもう45年くらい前になりますが、それでもいくつも覚えているものです。学園祭や修学旅行などのイベント中の一コマなどは覚えていても不思議ではないのですが、日常の何気ない友達とのやり取りの記憶は、どうしてそんなに印象的だったのか自分でもよくわかりません(笑)。そして、当時は気にもしていなかったけれど、後になって実感したことがあります。それは、中学校の卒業が友だちとの別れになる可能性があるということです。卒業後はまだしばらく同じ道を歩む人もいれば、ここから違う道に分かれていく人もいます。違う道に進む人とも、どこかでまたその道が交わることもあるかもしれませんが、このまま生涯会わない可能性もあります。そう考えると、やはり卒業というのは特別なできごとだと言えます。ところで、私には「道」というとすぐに思い出す、高村光太郎の「道程」という詩があります。卒業のはなむけに、この詩を贈ります。

感染症対策と免疫力アップ
そして、夏は熱中症予防にも

「ねこのしっぽ」

ね：ねる・睡眠をしっかりとる
こ：こまめに手を洗う
の：飲み物・水分補給
し：食事・三食しっかり食べる
つ：強い体・適度な運動を
ぽ：ポジティブな明るい気持ちで

道程 高村光太郎

僕の前に道はない
僕の後ろに道は出来る
ああ、自然よ
父よ
僕を独り立ちにさせた廣大な父よ

僕から目を離さないで守る事をせよ
常に父の氣魄を僕に充たせよ
この遠い道程のため
この遠い道程のため

詩の解釈は人それぞれだと思いますから、私の解釈を皆さんに押し付けるつもりもありませんが、私はこの詩の最初の2行が特に好きです。すでに誰かがつくった道を進むのではなく、まだ誰も通っていない道を切り拓いていくこと。雪の降った朝に一番で足跡をつけるのとは違って、実践に移すことはとても難しく、果たして自分は実行してきたかと問われれば、自信をもって「はい」とは答えられませんが、できればそうありたいと思ってきましたし、これからもその気持ちだけは持ち続けたいと思っています。

皆さんはこの先、次のステージで新しい出会いと共に、それぞれの道を歩いていくことになります。その道は、平たんでなだらかな時もあるでしょう。反対に、急な上り坂や下り坂、でこぼこ道やぐちゃぐちゃで歩きにくい道のこともあるかもしれません。しかし、その道がどんな状況の時でも、前を向いて進めばいつかはそこから抜け出せます。もちろん方向転換をしてもいいんです。転換した方向に、前を向いて進むことが大切です。皆さんが、周囲への気配りを忘れず、健康とけがに気を付けて、それぞれの信じる道を前向きに進んでくれることを願っています。 いったらっしゃい！